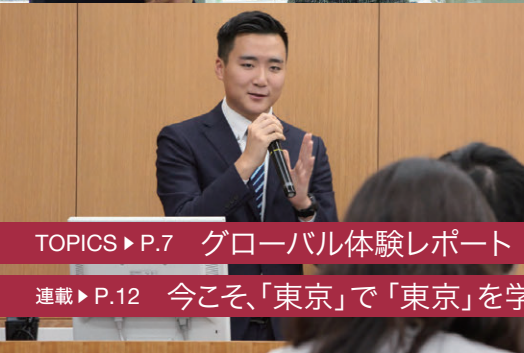
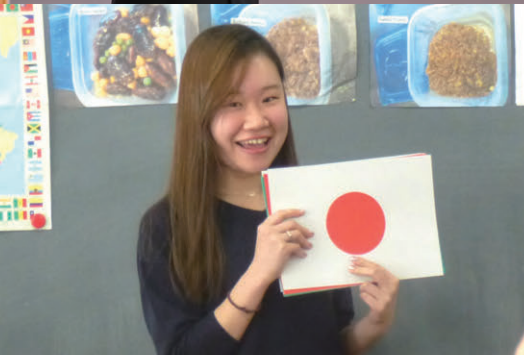


TG-PRESS

APRIL 2018

今、求められる コミュニケーション能力

プレゼンを重ねることでコミュニケーション力や
能動的な学びの姿勢を育む、TOGAKUならではの教育とは。



TOPICS ▶ P.7 グローバル体験レポート

連載 ▶ P.12 今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。

コミュニケーション能力を育てる

TOGAKU ならではの教育とは

前号のTG-PRESSでもご紹介したとおり、本学3・4年生にアンケートを行ったところ、80%の学生が「大学入学前と比べて自分の成長を実感している」と回答しました。なかでも、学生たちが特に成長を実感しているのは「コミュニケーション能力」。

今号では、TOGAKU生のコミュニケーション能力が育つ理由に迫ります！

多彩なプレゼンテーションの機会が、「伝える力」を育む

未来の社会を担う学生たちに、今、求められているのはどんな能力でしょうか？ 経団連の調査によれば、企業が新卒採用の選考時に最も重視する要素は「コミュニケーション能力」という結果が出ています(資料1)。

一方で、本学3・4年生に実施したアンケート結果によると、73.8%が大学入学後に「コミュニケーション能力が成長した」と答え、「何を通じて成長したか」という質問への回答は、「ゼミ」と「授業」が上位を占めています(資料2)。つまり、多くの学生が「ゼミや授業での学びを通じてコミュニケーション能力が成長した」と実感していることが見えてきます。

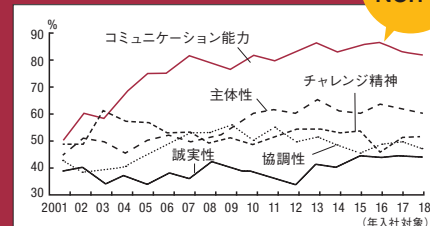
では、なぜTOGAKUの学生はコミュニ

ケーション能力を高めることができるのでしょうか。その理由の一つとして、本学の学びに「プレゼンテーションの機会が多い」ことが挙げられます。たとえば授業やゼミでは、大勢の前で発表するプレゼンの機会があるだけでなく、その本番に向けて授業やゼミ内で何度もプレ発表を繰り返します。そして、他の学生や教員とも意見交換をしながら、より学びを深めるとともに多くの人に伝わる表現力・プレゼンスキルを能動的に身につけていきます。

授業やゼミ以外にも、プレゼンの機会が豊富な本学。学生たちはプレゼンを日常的に、そして能動的に繰り返すことで、「自分の意見を相手に伝える力」＝コミュニケーション能力を日々磨いています。

資料1 企業が新卒採用の選考時に重視する要素(上位5項目の推移)

15年連続
NO.1!



※経団連(日本経済団体連合会)「2017年度 新卒採用に関するアンケート調査結果」より。

資料2 TOGAKU3・4年生105人アンケート
(2017年東洋学園大学調べ)

どんな部分が成長したと思いますか？

※複数回答

1. コミュニケーション能力

73.8%

2. 知識が増えた

59.5%

3. 行動力アップ/視野や価値観の拡大

53.6%

どんなことを通じて成長したと思いますか？

※複数回答

1. ゼミ

44.0%

2. 授業

39.3%

3. クラブ・サークル

35.7%

「伝える力」を磨くチャンスがこんなに！



プレゼンの基礎を培う機会 プレゼンTOGAKU

1年生による毎年恒例のプレゼンテーション大会。必修科目「教養基礎演習」の授業内で全学生がプレゼンを行い、クラス代表(各クラスの1位)と紹介者(同2位)を選出。代表者は、学部の全1年生の前でプレゼンテーションを行います。



02

ビジネスの現場から
フィードバックをもらう機会



産学連携プロジェクト

LGエレクトロニクス・ジャパン（株）や岩谷マテリアル（株）、（株）東京証券取引所など多彩な企業とコラボし、マーケティング戦略や新商品のアイデアを学生が提案。企業の方にプロの視点で評価やアドバイスをいただきます。



東京ドーム研究

現代経営学部「東京ドーム研究ゼミ」では、大学の目の前にある東京ドームシティを題材にビジネスを研究・発表。学生によるプロ野球のブランディング戦略は、「大学生のベースボールビジネスアワード」で優秀賞を受賞しました。

03

外国語でプレゼンする機会



鑑真杯 中国語スピーチコンテスト

本学と中国の浙江旅游職業学院が共催する毎年恒例の中国語スピーチコンテスト。外部からゲスト審査員を招き、学生たちは暗唱・朗読部門とスピーチ部門に分かれて学習の成果を披露し、中国語の発音やスピーチ力を競います。

英語スピーチコンテスト

学園祭の催しの一つとして開催されるコンテスト。学部・学年を問わず参加でき、学生たちは英語力とスピーチ技術を駆使して競い合います。



ALPS Presentation Event

英語特別選抜クラス「ALPS」を履修する4年生が、学びの集大成として卒業前に英語でのプレゼンテーションを行うイベントです。



04

研究内容を発表・討論する機会



卒業論文発表会

大学での学びの集大成となる発表会。各学部4年生の代表者が、教員と在学生の前で自身の卒業論文のプレゼンテーションを行います。その後、審査により学部ごとに最優秀論文賞や最優秀発表賞が選ばれます。

現代経営学部ビジネスプレゼン大会

学園祭の催しの一つとして開催されるプレゼン大会。現代経営学部の3・4年生が日頃の研究成果を発表し、プレゼンテーション能力を競い合います。



国際政治経済研究会

本学の教員研究員と学生研究員が参加する「国際政治経済研究会」。国際政治、国際経済に関する諸問題の発表や討論、研究を日々行っています。



TOGAKUで「伝える力」を 成長させた学生たち

授業やゼミ、海外研修に留学など、TOGAKUでの学びの機会を利用して
伝える力を磨き上げた4人の学生の実例をご紹介します。

01

国内外企業へのプレゼンを通じてコミュニケーション力が成長

海外でのプレゼンを機に、語学に対する向上心も目覚めた

高校時代からプレゼンの機会が多く、人前で話すことに慣れていた廣江さん。大学ではそのスキルを活かし、2年次からオープンキャンパスの学生スタッフとして活躍。また、3年次には海外インターンシップに挑戦し、コミュニケーション能力をさらに成長させました。

「インターンシップ先はネパールで、現地の技術を使って日本人向けの新商品を企画し、Incentive Group of Company (IGC) という現地企業にプレゼンするという内容でした。僕らのチームが企画したのは、ネパールの名産品であるフェルトを使ったパーティーフラッグ。英語でプレゼン資料を作り、通訳の方にサポートしていただきながら、英語混じりの日本語でプレゼンを行いました。プレゼン自体はいつも通り気持ちを込めてできたと思いますし、IGCの方からも『おもしろい提案だね』と言ってくれましたが、一方で『海外の方に伝える』ことの難しさも実感。この経験をきっかけに『英語でコミュニケーションできるようになりたい』と強く思うようになり、帰国後は自主的に英語の勉強を始めました」



ネパール企業に新商品を提案



廣江 海人(ひろえ かいと)

現代経営学科4年 新商品開発ゼミ
(都立大田桜台高等学校出身)

ゼミ活動を通じて人と触れ合い 「聞く」大切さも実感

海外インターンシップを機に向上心や行動力が高まった廣江さんは、ゼミ活動でも力を発揮。岩谷マテリアル株式会社との産学連携プロジェクトでは、再生コルクを使ったユニークな新商品を仲間とともに考案し、同社にプレゼンしました。「新商品開発にあたっては、チームの仲間と何度もディスカッションを重ねたほか、外部の人にもいろいろ話を聞きに行きました。本やネットの情報だけに頼らず、実際に足を運んで人から話を聞くことで出てくるものも多かったですね」

自発的に行動し、人と積極的に触れ合うことで、コミュニケーション力に磨きかけた廣江さん。「伝える力」と「聞く力」をバランスよく身につけ、就職活動でさえも楽しみながら取り組んでいます。



産学連携プロジェクトのプレゼンでは、再生コルクを利用した写真立て「Vin Rouge」を提案



PROFESSOR'S COMMENT

入学当初は視野の狭さに起因する「空気の読めなさ」がありましたが、ゼミでの「デザインマネジメント」理論の学修と、上記のような実践をきっかけに、言語やモノを通した「コミュニケーションのデザイン」ができるようになりました(後藤智准教授)

02

ICPの学部留学で、自己主張が苦手だった自分を変えた



学部留学したカリフォルニア州立大学チコ校にて



インドの就業体験ではサイクリングツアーを企画。現地サイクリストにインタビューも行った



PROFESSOR'S COMMENT

Rika's English has greatly improved due to her year in the U.S. She returned from her study abroad with a greater confidence in herself and in her ability to communicate what she wants to say. (Andrew Boon 教授) ※莉可さんの英語力はアメリカで1年間学んだことにより大きく伸びました。留学から戻った彼女は、自分自身、そして、自分が言いたいことをうまく伝えられるコミュニケーション力に一層の自信を持てるようになりました。



中田 莉可(なかた りか)

英語コミュニケーション学科／
国際キャリアプログラム(ICP) 4年
(都立雪谷高等学校出身)

「伝える」経験を重ねるごとに自信がつき、また挑戦したくなる！

以前は自己主張が苦手だった中田さんが、自分を変えたきっかけはICPの学部留学。米国留学時、感情豊かに意見する現地学生に刺激され、「うなずいているだけでは何も伝わらない」と痛感したそ

う。以降、先生や友人に積極的に話しかけ、伝える力を磨いていったと言います。

帰国した現在も、国際的なスポーツ大会に通訳ボランティアとして参加したり、インドでのインターンシップに挑戦する

など、多彩な経験を通じて成長中。

「すべての経験がコミュニケーション力を高めることにつながっているし、経験を積むことで自信がついて、また次も挑戦しようという気持ちになれるんです」

ゼミ活動で培った「伝える力」で就活もスムーズに

03

場数を踏み、相手の反応に合わせてプレゼンできるまでに進化

「うちのゼミは積極的に発言する人が多くて、プレゼンの機会も豊富。研究発表はもちろん、懇親会のお店選びもパワーポイントで資料を作ってプレゼンするほどです(笑)。僕はもともと人前で話すことには慣れていましたが、ゼミ活動で場数を踏んだことで、相手のリアクションを見ながら話す余裕も出てきました」と熊倉さん。加えて、出身高校のキャリア系授業に講師として参加したり、インターンシップ先の企業でプレゼンを行うなど、学外でも自発的に「伝える力」を磨いています。そのコミュニケーション能力は就職活動でも役立っており、就活解禁からすぐに2社の内定を獲得するなどの成果に現れています。

熊倉君はプレゼン能力のみならず、ゼミ内の様々な意見をじっくり聴き、集約する能力にも長けています。また、細かいことによく気づき、積極的に質問するなど、私も見習うべき点が多々あります。社会での成長も期待できます

(福田佳織教授)



PROFESSOR'S COMMENT



人前で自分の想いを伝えるのが得意な熊倉さん。出身高校に招かれ、後輩に自身の経験談を話すなどの活動も行っている

熊倉 勇介(くまくら ゆうすけ)

人間科学科4年 ヒューマン・サービスゼミ
(都立葛飾総合高等学校出身)

鈴木 紋

(すずき あや)

グローバル・コミュニケーション学科
2018年3月卒
多文化理解ゼミ
(私立屋久島おおぞら
高等学校出身)



ゼミでの卒論発表は20回以上！ 客観的な意見を反映しつつブラッシュアップ

小学校の頃、家族で中国を旅行したことをきっかけに外国の言葉や文化に興味を持ち、語学の勉強をしたいと思うようになったという鈴木さん。英語の少人数制クラスに惹かれてTOGAKUを選び、1～2年次は英語と中国語を中心に語学をコツコツ習得。3～4年次は多文化理解ゼミに入って日本や世界各国の多様性を学び、その集大成として、中国と日本の関係性をテーマにした卒論を書き上げました。「卒論の準備は3年頃から始まり、ゼミ内で発表する機会が20回以上ありました。発表後は毎回、先生やゼミ生が疑問点・改善点などを記入したリアクションペーパーをくれるので、その意見を取り入れつつ修正し、再び発表……ということを繰り返しました。フィードバックをもとに研究を重ねたことで、中身の濃い論文に仕上げられたと思います」

04

発表とフィードバックの繰り返して論文内容を深めた

最優秀論文賞を受賞、 成績優秀で学長賞にも！

1～2年次は人前に立つことに苦手意識が強かったという鈴木さんですが、3年次からゼミでの発表の機会が増え、開き直って場数を踏んだ結果、徐々に慣れていったそうです。また、「プレゼンが上手なゼミ生の発表を聞くことも勉強になった」とも語ります。そして、卒業前には卒論発表会にも出場。

「自分が大勢の人前で発表できるようになるなんて思ってもいませんでした。発表会では、50ページの卒論を4ページのレジュメに収め、7分間で発表しなければならなかったのが、要点をまとめるのも難しかったですね。でも、論点を絞って相手に伝えるいい訓練になりました」

発表会当日は、教員や在学生の前で堂々と論文を披露。深い論文内容が評価され、最優秀論文賞も受賞しました。また、学部トップの成績を収めた鈴木さんは卒業式の代表にも選ばれ、成績優秀者に贈られる学長賞も受賞しました。



卒業式には学生代表として登壇



卒論発表会では大勢の前でプレゼン。「苦手意識があったけど、やってみたら意外と苦にならなかった」と振り返る

「地域の役に立ちたい」と 地元のJAあきがわに就職

就職活動も順調に進み、地元・東京都あきるの市の「JAあきがわ」に就職。「大好きな地元で地域の役に立つ仕事がしたい」とJAを選んだそうです。「今、日本は中国にお米を輸出したりもしているので、いつか大学での学びが役に立つ日が来るかも。卒業後も、中国語の勉強は続けていくつもりです。大学時代に身につけたコミュニケーション力を活かして4月からがんばります！」



PROFESSOR'S COMMENT

鈴木さんは努力賞の人です。卒論作成時、文献を参考に大筋の原稿を仕上げたところで、「さあ、図書館にある中国関係、日中文化比較の本にできるだけ目を通しましょう」と私が言ったので驚いたと思います。さらに文献を読み進め、抜け落ちていた視点はないか模索し続けました。深みのある論文は、彼女の努力の証です(佐藤泉教授)

グローバル体験レポート

毎年恒例、春の短期留学が実施され、今回も多くの学生が参加しました。
また、長期留学や学部留学、海外インターンシップなど、
さまざまなグローバル体験を通じて成長するTOGAKU生の姿をお届けします。



短期留学

春休みを利用した短期留学で 語学習得&異国の文化に触れる



中国の短期留学の様子。参加した学生全員から「中国のイメージが180度変わった」という感想が聞かれた

2～3月にかけての春休み期間中、アメリカのカリフォルニア大学アーバイン校、カナダのカルガリー大学、中国の浙江旅游職業学院への短期留学が実施され、合計17名の学生が参加しました。学生たちは授業や日常生活を通じて語学力を高めたのはもちろん、現地の文化や人々と触れ合うことで、グローバルな視野も身につけて帰国しました。

長期留学

カナダ・カルガリー大学に 長期留学していた学生が帰国

2年次の9月から長期留学していたグローバル・コミュニケーション学科の後藤美風さんが、半年間の留学を終えて今年3月に帰国しました。現地では積極的に英語でコミュニケーションを取るよう心掛け、自身の英語力の向上を実感できたという後藤さん。今後は国際政治学を学び、将来は英語や国際関係の仕事に就きたいと考えているそうです。



クラブ活動やイベントにも積極的に参加し、人と交流することで語学力を高め、視野も広げた後藤さん

国際キャリアプログラム (ICP)

留学ライフの現実とは？ 学部留学中の学生にインタビュー



週4回英語でプレゼンをこなすなど、ICPで1年間かけて下地を作り、満を持してアメリカの大学に学部留学！

国際キャリアプログラム (ICP) の3年生3名が、昨年夏からアメリカの大学に学部留学中。その一人である伊藤樹應さんは、ユタバレー大学で心理学や人類学、スペイン語などの授業を受けつつ、日本語を学ぶ学生をサポートするチューターとしても活躍しています。「今はアメリカ人のルームメイトと4人で共同生活をしながら学校に通っています。授業は当然ネイティブ向けなので、単語も内容も難しく、大変ですが充実しています。授業外では、日本語のチューターとして活動。僕は教育に興味があるのでとてもやりがいがあります。帰国後は留学での経験を活かし、教育にかかわる分野の学びを深めていきたいです」



「留学に来て本当によかった。現地学生と話をすることで、文化や考え方の違いも学べて興味深いです」と伊藤さん

海外インターンシップ

国際キャリアプログラム3年生がインドでの就業体験に挑戦！

今年2月、国際キャリアプログラム (ICP) 3年生の小山優季さんと中田莉可さんが、インドの企業で1週間の海外インターンシップを実施。サイクリング用バイクを扱うStarkenn社での就業体験を通じて、海外ビジネスの現場を知るとともにインドの文化も肌で体感しました。

現地では、社員の方々やサイクリストから情報収集をしたほか、実際に早朝サイクリングにも参加。それらを踏まえて、インド人サイクリストに向けた日本でのサイクリングツアーを企画立案しました。



ツアーを企画するにあたって、Starkenn社に集まる現地サイクリストへのインタビューも実施

「短期間で意見をまとめ、発表するのは大変でしたが、就職活動に向けてリアルなビジネス体験ができて良い経験になりました(小山さん)」



旦 祐介 (だん ゆうすけ)
東京大学教養学部教養学科イギリス分科卒業、米国アマースト
大学教養学部卒業(政治学)、東京大学大学院総合文化研究科
国際関係論専門課程博士課程単位取得満期退学。東洋学園大
学副学長を経て現職

新学長就任

「学生とともに、グローバルな前進を」 4月1日より旦祐介教授が新学長に就任

グローバル・コミュニケーション学部の旦祐介教授が、4月より学長に就任しました。「時代はいよいよグローバル化と多様化に向けて変化しています。『時代の変化に応える大学、国際人を育てる大学、面倒見のよい大学』という三つの理念を念頭に、大学のさらなるグローバル化を推進し、学生に対して国際交流の機会をより多く提供していきたい。そして、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、社会に開かれた大学として、新しい時代に向けて学生・教職員とともに前進したいと考えています」(旦学長)

グローバル教育

平成29年度「私立大学等改革総合支援事業」 (タイプ4: グローバル化) に選定

東洋学園大学は、文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団が実施する平成29年度「私立大学等改革総合支援事業」において、タイプ4「グローバル化」に選定されました。「国際人を育てる大学」を理念のひとつに掲げ、英語教育の強化や国際交流環境の整備などのグローバル化に力を入れてきた取り組みが評価され、今回の選定に至りました。本学は今後もさらなるグローバル化の推進に努めてまいります。

スポーツボランティア

ICPの学生が
ボランティア
参加!

2020東京オリンピック・ パラリンピックを見据え スポーツ大会の 通訳ボランティアに挑戦!

昨年秋に開催された「BFA U-15アジア野球選手権大会」など2つの国際的なスポーツ大会に国際キャリアプログラム(ICP)の3年生が通訳ボランティアとして参加。スポーツの国際大会におけるボランティアの役割を学びつつ、現場での通訳に挑戦しました。また、11月末には「東京2020」でのボランティアに興味を持つ学生向けシンポジウムを本郷キャンパスで開催。多くの学生が参加しました。



就職活動イベント

7日間で160社が来学! 在学生限定学内企業セミナー



新4年生の就職活動が3月に解禁となり、本学でも毎年恒例の「学内企業セミナー」が3/5(月)にスタートしました。「学内企業セミナー」は在学生限定の合同企業説明会で、多彩な業界の採用担当者が一堂に会し、近い距離でじっくり話ができる貴重な機会として内定につながる率も高く、企業・学生どちらからも好評のイベントです。今年は7日間で160社の採用担当者が来学しました。

学部長賞

資格試験や大会などで好成績を収めた 9名の学生が学部長賞を受賞

本学では、学外の資格試験や大会で優秀な成績を収めた学生に学部長賞を授与しています。2017年度後期は7名が学部長優秀賞を、2名が学部長奨励賞を受賞しました。



学部長優秀賞

武井佑太/グローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科4年(宅地建物取引士合格)
日吉和也/現代経営学部現代経営学科3年(日商簿記検定2級合格)
熊田有佑/現代経営学部現代経営学科4年(日商簿記検定2級合格)
高橋歩/人間科学部人間科学科2年(心理学検定2級合格)
永井美咲/人間科学部人間科学科3年(心理学検定2級合格)
富岡沙緒/人間科学部人間科学科3年(心理学検定2級合格)
小林知博/人間科学部人間科学科4年(心理学検定2級合格)

学部長奨励賞

千葉麻妃/グローバル・コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科2年(ホテルビジネス実務検定試験ベーシックレベル2級合格・優秀賞受賞)
高木天元/人間科学部人間科学科2年(第11回全日本学生・ジュニア短歌大会「高校生・大学専門学校の部」優良賞受賞)

ゼミ長の小澤さんが
通訳として活躍！

韓国・安養大学の学生らが来学 2日間にわたって泰松ゼミの学生と交流

昨年11/17（金）、韓国の安養大学社会科学学部行政学科の学生らが来学し、グローバル・コミュニケーション学科の「現代都市文化ゼミ」（泰松範行教授）と合同ゼミを実施しました。安養大の学生が「韓国で人気の高い日本文化」について韓国語でプレゼンを行い、学生が自発的に通訳を担当。言葉の壁を越えて、日本の伝統文化や最近流行しているメディアについての活発な意見交換が行われました。



英語コミュニケーション学科

地域の学童クラブや小学校で 子どもたちに英語体験を！

「児童英語教育ゼミ」（坂本ひとみ教授）を中心とした英語コミュニケーション学科の学生による、学外での外国語活動実習が活発です。昨年度は福島県や都内の小学校で実習を行ったほか、この春からはベネッセスタイルケア（株）と産学連携し、文京区内の学童クラブで小学生に英語体験の機会を提供するプロジェクトもスタート予定。地域の子どもたちと触れ合いながら、英語や海外文化、教育に関する学びを深めます。



人間科学部

有木ゼミの3年生が 東京家庭裁判所で 学外研修

人間科学部の「心理・カウンセリングゼミ」（有木永子准教授）の3年生12名と有木准教授が、学外研修で東京家庭裁判所を訪問しました。今回の研修では、ドラマ化したDVDで非行少年の処分事例を学び、その後、実際の少年審判廷や家事事件の調停室、法廷を見学。家裁調査官や法務技官などの心理学関連専門職が、面接や心理検査を通して子どもとどのように関わっているかを学ぶことができた有意義な研修でした。



現代経営学部

LGエレクトロニクス・ジャパンとの 1年間の産学連携プロジェクトがついに終結！

「マーケティングとメディア研究ゼミ」（八塩圭子准教授）では、目白大学、LGエレクトロニクス・ジャパン（株）と連携し、「LGが有機ELテレビを日本で売っていくには？」をテーマにしたマーケティングプロジェクトを1年間にわたり進めてきました。7月の中間発表、9月の韓国研修を経て、11月にはついに最終発表を実施。本学チームの提案した「アプリをきっかけに若者のファン層を増やす長期戦略」が優秀賞を受賞しました。

人間科学部

塩谷ゼミの学生ら20名が 児童養護施設でボランティア

東京都にある児童養護施設「こどものうち八栄寮」で昨年12/27（水）に開催されたもちつき大会に、人間科学部「心理・カウンセリングゼミ」（塩谷隼平教授）のゼミ生らをはじめとしたTOGAKU生20名がボランティアとして参加。子どもの付き添い係やもちつき係、もち丸め係、もちの配膳係、美化係などを手分けして担当しました。当日は好天にも恵まれ、子どもたちと一緒に楽しいひとときを過ごしました。



食生活応援プロジェクト

よりよい食生活のきっかけに—— ロート製菓とコラボしたランチセットを無料配布



昨年11/28(火)～30(木)の3日間、本郷キャンパスで「学生の食生活応援プロジェクト」を実施しました。同プロジェクトは、「健康の基は食にあることを踏まえ、学生の食に関する関心を高め、よりよい食生活が送れるよう支援する」という目的で実施。ロート製菓(株)及び本郷大横丁通りの老舗ベーカリー・木村屋の協賛により、栄養価の高いランチセットを学生に無料配布しました。

栄養バランス抜群の
ランチセット



学園祭



2日間で約1,300人が来場する大盛況! 第25回学園祭「フェニックス祭 郷郷祭り」

昨年10/14(土)、15(日)に開催された第25回東洋学園大学「フェニックス祭 郷郷祭り」。本郷キャンパスでの3学部合同の学園祭は、前年に続き2回目です。前年の経験を活かし、学園祭運営局の学生が中心となってキャンパスの装飾やイベント内容を工夫した結果、前年を上回る来場者で賑わいました。また、恒例の英語スピーチコンテストや現代経営学部のビジネスプレゼン大会も行われました。

ミス&ミスター
TOGAKUも決定!



学園祭への模擬店出店も、実は学びの一環! 「起業体験プログラム@TOGAKU」

本学の現代経営学部と学園祭運営局が主催し、東京証券取引所(JPX)が共催する「起業体験プログラム@TOGAKU」は、学園祭の模擬店を「株式会社」に見立て、ビジネスプランの提案と会社設立・資金調達から実際の会社運営(学園祭での模擬店)、決算・監査、株主総会までの流れを体験する実践的な学びのプログラム。昨年は学生有志4チームが参加し、学園祭に模擬店を出店しました。



起業体験
プログラム

大学開学25周年を記念した 特別イベントを学園祭2日目に開催

開学
25周年
記念

学園祭2日目には、大学開学25周年記念講演「過去と未来をつなぐ日」を開催し、大勢の卒業生や懐かしい先生方にご出席いただきました。当日は、第2代学長を務めた行方昭夫名誉教授による講演、本学の元教授・平井宏先生と卒業生3名、原田規峻子先生によるパネルディスカッション、名刺交換会などを実施。大学と卒業生との縁を改めてつなぐ温かなイベントとなりました。



「HONGO DISCOVERY MATSURI」で 外国人観光客をおもてなし

イン
バウンド

学園祭期間中に開催された「HONGO DISCOVERY MATSURI(本郷ディスカバリー祭)」は、現代経営学科「マーケティング戦略ゼミ」(本庄加代子准教授)の3年生を中心に、現代経営学科と英語コミュニケーション



学科の学生有志が企画・運営するインバウンドプロジェクト。2日間で計15名の外国人観光客を迎え、書道体験のほか学生による和太鼓演奏や学園祭での焼き鳥試食などで「おもてなし」しました。

小松選手を中心に、 男女テニス部が躍進中！



大活躍の小松選手は
理事長賞も受賞！

女子テニス部・小松莉奈選手が本学初となる関東学生テニス選手権（夏関）優勝を果たし、男子テニス部は関東大学テニスリーグで4勝1敗の好成績を残すなど、テニス部の躍進が目立った昨シーズン。
総体的にレベルが高まってきており、今季はさらなる活躍が期待されます！

男女テニス部

全日本学生室内テニス選手権大会

小松選手がシングルス本戦に出場 ベスト16入りの快挙

平成29年度全日本学生室内テニス選手権大会で、女子テニス部の小松選手がシングルス本戦に出場しました。同大会は全日本学生のトップランカーが集う一戦で、本戦への出場は本学初。最終結果はベスト16となりました。また、ダブルスでも小松・根本組が予選ファイナルまで進出する健闘を見せました。

関東大学テニスリーグ

層の厚い男子3部リーグで 4勝1敗の好成績！

平成29年度関東学生テニスリーグは、男子が3部リーグ全5試合を4勝1敗で終える大健闘。得失点差でリーグ3位となり、2部との入替戦進出は逃しましたが、各選手が飛躍し、結果を残しました。一方、女子は強豪が揃う2部リーグで健闘しましたが、3部降格という結果に。今シーズンは2部復帰を目指します。



小松選手



林選手



神田選手

関東学生新進テニス選手権大会

男女ともに本戦で健闘！ 1・2年生が着々と成長中

平成29年度関東学生新進テニス選手権大会（新進戦）には、男子シングルス1名、男子ダブルス1組、女子シングルス2名、女子ダブルス1組が本戦に進出。男子シングルの神田選手（2年）と女子シングルの林選手（2年）、女子ダブルスの林・二宮（1年）組が本戦2回戦まで勝ち上がるなど1、2年生の活躍が目立ち、来シーズンに向けた各選手の成長につながる大会となりました。

「松戸テニスフェスタ2017」に テニス部員2名がボランティア参加

昨年11月、テニス部の山口晃弘選手と伊藤絵玲菜選手が「松戸テニスフェスタ」にボランティアスタッフとして参加。ジュニアのレッスンをサポートし、子どもたちにテニスの楽しさを伝えました。



子どもたちに笑顔で接する山口選手

硬式野球部

秋季は2部リーグで5勝5敗、単独3位 4月から始まる春季リーグでは、2部優勝・1部昇格を目指す！

昨年秋に行われた秋季リーグで、本学野球部は全10試合を5勝5敗で終え、2部単独3位の成績を残しました。この秋季リーグをもって4年生は引退し、新チーム体制に。上野浩孝新主将のもと、チーム一丸となって練習を重ねています。

4月からはいよいよ春季リーグが始まります。今シーズンこそ2部優勝・1部昇格を目指す新生野球部の応援をよろしくお願いします！



昨年11/12（日）に行われた秋季リーグ最終戦では、工学院大学と対戦。足を絡めた積極的な攻めが功を奏し、8-7で勝利した

今こそ、「東京」で「東京」を学ぶ。

最先端のグローバル都市・東京のど真ん中に建つTOGAKUは
旬な題材にあふれる東京を教材として学べる恵まれた環境です。
しかも、「2020東京オリンピック・パラリンピック」に向けて
街が激変しつつある今は、東京を学ぶにあたって絶好のタイミング。
この連載では毎回、「東京」をテーマにした各学部の学びをご紹介します。

東京＝旬な題材や学びのタネの宝庫！

Global Economy

Global Business

Inbound Tourism

Community Development

Infrastructure

Vol.2

グローバル・コミュニケーション学部「新国立競技場定点観測」

変わりゆく東京に身を置き、学ぶ貴重な体験

2020年東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場。新宿区と渋谷区にまたがる敷地に、現在急ピッチで建設が進められています。その様子をリアルタイムで追い、記録するという試みが情報化社会ゼミ（荻野博司教授）の「新国立競技場

朝日新聞デジタル「国立競技場に関するトピックス」より



撮影した画像は、朝日新聞デジタルを通じて一般にも公開

定点観測」。学生たちは2016年5月に観測を開始し、夏休みや冬休み期間中も一度として欠かすことなく2週に一度の撮影を続けてきました。こうした学びを通じて、変わりゆく東京の姿を間近で目撃できるのも「東京のど真ん中」にキャンパスを構えるTOGAKUならではの強みといえます。

撮影にあたっては、競技場に隣接する出版社・河出書房新社の屋上をお借り



今年3/1（木）には、関西で人気の情報エンターテインメント番組『ちちんぷいぷい』（毎日放送）で定点観測の様子が紹介され、学生がインタビューを受ける一面も

し、撮影した画像は朝日新聞デジタルの特設ページに連続画像として掲載。出版社や新聞社との連携も、学生にとって新鮮な学びの機会となっています。観測作業は競技場が完成するまで続ける予定で、今後も学年を超えてリレーされていきます。

これまでの定点観測

・観測期間：2016年5月11日～継続中 ・観測回数：50回（2018年4月1日時点）

第1回 2016年5月11日



工事初期の様子。その後、手前の木が伐採され、更地になって工事が進んでいった

第16回 2016年12月7日



盛り土がならされ、平らになった土地に道のようなものができ、作業車が増えた

第25回 2017年4月14日



セメントのタンクが出現し、地盤整備が活発化。この頃から背の高い機材が増えた

第42回 2017年12月21日



競技場の基礎や内側の観客席部分が作られたのち、外側の壁の工事が始まった

第50回 2018年3月29日



外壁の高さがアップ。いよいよ競技場らしい形になってきた

NOW!